

令和4年度食品ロス削減総合対策事業のうち
食品ロス削減推進事業

フードバンク活動マッチング支援事業 報 告 書



令和5年3月

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

目次

1. 事業の目的	2
2. 令和2,3年度の振り返り	3
3. 令和2年度、3年度の事業を終えた際の課題	3
4. マッチングが適している食品と組織形態	4
5. マッチングシステム実用に向けて	5
6. 令和4年度マッチングシステム構築の取り組み	6
7. マッチングシステムの概要	10
8. マッチングシステムフロー	11
9. 事業者画面	13
10. 利用者画面	15
11. 管理者画面	18
12. マッチングシステムの機能と特徴	22
13. 今後のマッチングシステムの利用について	22
14. 3年間の支援事業を終了するにあたり	23

1. 事業の目的

＜事業の目的＞

「令和4年度食品ロス削減総合対策事業のうち食品ロス削減推進事業」を行うにあたり以下の目的を掲げた。「本事業の目的は、食品の提供者（メーカー・流通企業等）の未利用食品の有効活用の促進のために、フードバンク活動における供給側の供給情報と受入側の需要情報等を一元的に管理できるマッチングシステムの構築・実証に向け、検討会の開催、マッチングシステムの構築、実証・調査、報告書の作成を行うことである。」



当法人の食支援「ビーバーリンク」の活動

2. 令和2、3年度の振り返り

＜令和2年度～フードバンク団体へのアンケート調査とシステム構築、実証実験＞

マッチングシステム構築にあたり、全国のフードバンク団体、生活協同組合にwebアンケートを実施し、支援団体の現状の課題とマッチングシステムへの期待を調査した。またマッチング支援事業に参加するシステム会社3社がビーバーリンク開催当日とフードバンクかながわを視察、当法人事務局へのヒアリングを実施した。

上記からマッチングシステムを試作し、当法人のビーバーリンクで実証実験を行った。初年度はアンケートを実施し考察したほか、システム会社と認識の共有化を図り、マッチングシステムを構築、その実証実験となった。

＜令和3年度～大型フードバンクでの利用と冷凍冷蔵商品への対応と検討＞

前年度の取り組みを受けて、システムの改善と全国のフードバンク団体や企業も活用できるシステムの構築を目標とした。全国各地の大規模なフードバンクでも活用できること、また冷凍・冷蔵・青果など異なる温度帯の食品取り扱いが可能であること、そして入力とマッチング作業が効率的にできることをめざしてシステムの改修を行った。

その後の実証実験では全国各地の大規模なフードバンク団体に参加いただき、マッチングシステムの使用感や操作性、さらにシステム利用の意向について調査を実施。これらシステム構築を行い、他のフードバンクや食品提供の企業と意見交換や交流を重ねた。

3. 令和2年度、3年度の事業を終えた際の課題

＜最前線の子ども食堂やフードバンクには本マッチングシステムの負担が課題＞

システム構築に関わった2年間に当法人の食支援「ビーバーリンク」も活動内容が充実し食品取扱量も拡大した。実際の食支援への関わりをつうじて、当法人とビーバーリンク参加団体である子ども食堂やフードバンク団体との意見交換で、本事業で構築したマッチングシステムの課題を以下で認識した。

- 当法人および実証に参加した団体、当法人と食支援を連携する団体においては、支援にあたり情報を入手してから使用するまでの期間は短い。さらに少量・多品目を取り扱うため、システム入力や調整で、かえって時間を要することがある。
- ビーバーリンクでは当法人が青果や冷蔵品を数量に応じて、当法人が配分を決定し各団体に提供しているが、本システムをつうじたマッチングでは、利用団体の希望数量をもとに配分するため、希望数が入力されるまで時間がかかる。画面の操作、入力、希望数の集約の手間を考慮すると、システムを用いない方が負担は少ない面がある。視察にうかがった各地のフードバンク団体でも同様の意見があった。
- 当法人の食支援に参加する団体では参加集約など、メールやLINE、facebookなどコミュニケーションツールの活用は積極的に行われていた。これらは個人のスマートフォンでメッセージを送るだけであり、画面の操作、入力の手間を考慮すると、システムを用いるより負担が少ない面がある。

4. マッチングが適している食品と組織形態

＜大量に発生し、利用できる団体が限られる防災備蓄品は マッチングシステムが適している＞

子ども食堂や地域フードバンク団体との食品提供にはマッチングシステムは不向きであるが、防災備蓄品の活用では使えると考えた。その理由として

- 防災備蓄品は少ない種類で一度に大量の提供もあることから、事前に使える団体とのマッチングが必要。防災備蓄品は調理して提供する子ども食堂ではあまり好まれない傾向があるが、フードパントリーなど配布型の活動団体では活用いただいている。
- 防災備蓄品は全国各地で入れ替え時に発生し、提供数も大量なことが多いため、各地域の中間層のフードバンクとの調整で使えるのではないかと。中間層のフードバンク団体は事務局スタッフがいる場合が多く、システム入力への抵抗感は少ない。
- 大量に提供いただいた場合、一団体だけで消費できないことも多く、複数団体とマッチングする場面がある。これにより防災備蓄品の有効活用も可能となる。

＜令和4年度のマッチングシステム構築にあたっての検討＞

マッチングシステムの活用について、全国各地のフードバンクでの活用の可能性、また各団体ですでに使っているシステムはどのようなものがあるのか、防災備蓄品のニーズは、などフードバンクと意見交換を行った。ここから防災備蓄品のマッチングを事業化し、マッチングシステムにおける手数料収入をシステム運用の経費に充当することを検討した。

- 6月 フードバンク山梨訪問 認定NPO法人フードバンク山梨にて既存のクラウドサービスでの在庫管理など説明を受けた。
- 9月 福岡県フードバンク協議会訪問 一般社団法人福岡県フードバンク協議会にて独自に開発したマッチングシステムの説明と現状について説明を受けた。
- 10月 フードバンク愛知、セカンドハーベスト名古屋訪問 NPO法人フードバンク愛知でマッチングシステムのニーズについて意見交換。認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋でシステム導入について意見交換を行った。



地域の中核的なフードバンク団体「フードバンク山梨」

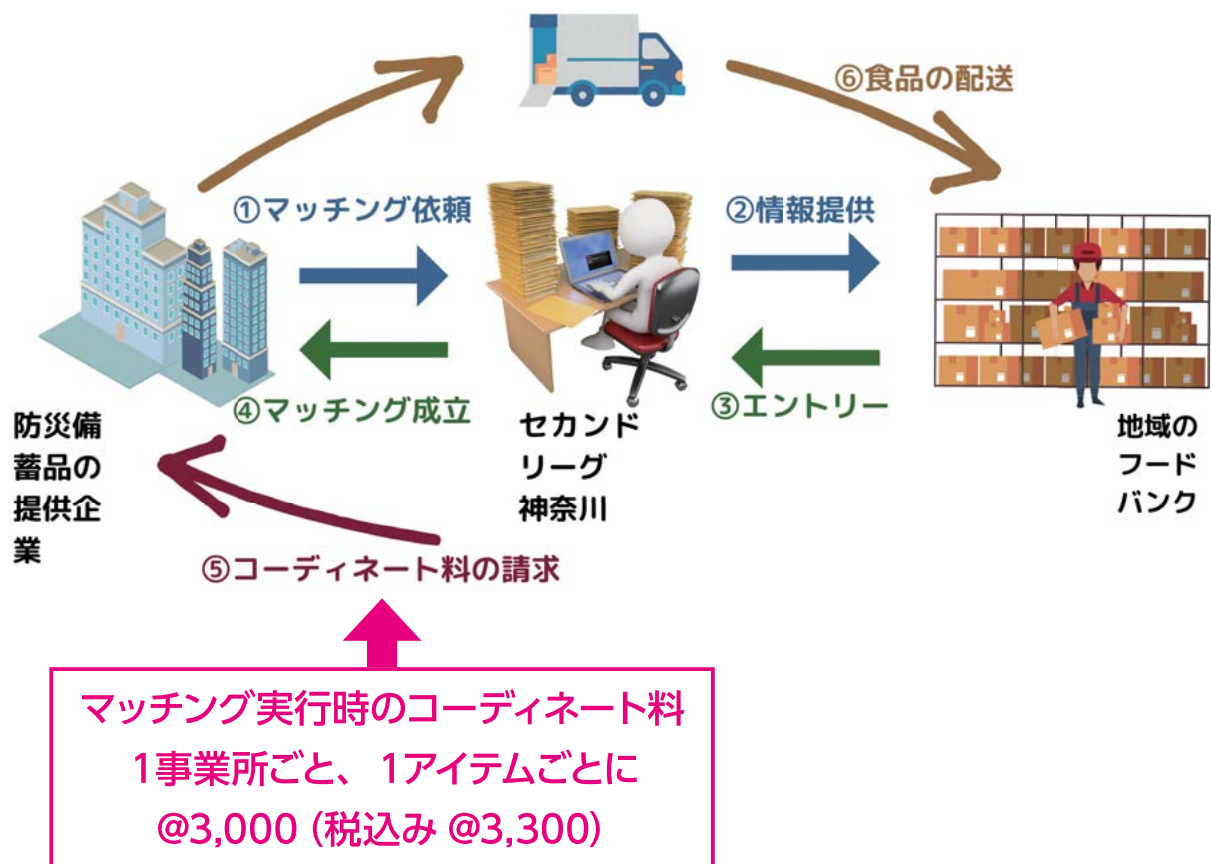
5. マatchingシステム実用に向けて

＜ 支援事業終了後のシステム運用の課題 ＞

令和4年度までは農林水産省の支援事業の中でマatchingシステムのランニングコストの支援があった。この事業は令和4年度で終了し令和5年度以降、当法人がマatchingシステムを運用する。そのため、クラウドサービスのサーバー使用料、システム会社による保守サービス料、認証やセキュリティに関する費用など年間80万円程度の費用負担が必要となることが課題となっている。

＜ 防災備蓄品マatchingコーディネートの事業化 ＞

この費用負担を食品提供元である企業にお願いできないか検討。防災備蓄品の新旧入れ替え時の旧備蓄品を支援団体に引き渡すマatchingを事業化し、マatchingシステム運用の費用に充てることとする。企業から防災備蓄品入れ替え時の旧備蓄品の提供を申し出ていただき、当法人が利用できる団体とマatching。マatching成立後、食品提供企業にコーディネート料をいただき、マatchingシステムの運営費の一部に充てる。



6. 令和4年度マッチングシステム構築の取り組み

＜今年度のシステム構築開始にあたっての課題＞

令和4年度のシステム構築を前に、過去2年間の実証実験とアンケート、ビーバーリンクの場を通じて、子ども食堂や市民に直接的に支援を行うフードパントリー団体にとって、都度システムにアクセスし調整を待つマッチングシステムはかなり煩雑との声があった。

＜新たな使用形態＞

上記の課題について、子ども食堂など支援現場に近い団体をシステムの利用者として想定せず、企業提供の防災備蓄品を当法人がシステム運営者となり、各地の中間層のフードバンク団体を利用者として想定することとした。また品目も防災備蓄品は常温品であることから、システムを利用する場面も絞り込むことができた。

＜プロジェクト管理の支援＞

令和4年度のプロジェクトにあたり実務者会議のメンバーである富士通Japan社に、一参加者より上のプロジェクトマネジメント業務の補助の役割を依頼し、お引き受けいただいた。これによりピープルソフトウェア社に作業内容の調整を行っていただいたほか、プロジェクトのスケジュール管理も行っていただいた。富士通Japan社のスケジュール管理のもと、パルシステムグループのセキュリティ管理からマッチングシステムのURLにアクセスできるよう、ソレキア社で対応いただいた。当法人もシステム構築の担当を明確化し、再度、システム構築に着手していった。

あらためて食品マッチングの対象と利用団体を設定しなおし、マッチングシステム構築検討会や実証実験などシステム構築の作業にあたっていた。

＜令和4年度マッチングシステム構築検討会＞

令和4年度はマッチングシステム構築検討会をオンライン会議で5回実施した。検討会は当法人とシステム会社3社と特に関係の強い企業、組織、フードバンクで構成し、システム構築の進捗状況と課題、今後の対応など報告と意見交換を行った。また、フードバンクに関わる団体や機関、関係のある組織に声がけをし、オブザーバー参加もいただいた。検討会では当法人の関わるフードバンクマッチングシステムの構築状況を関心のある組織や団体に開示した。

＜マッチングシステム構築検討会メンバー＞

富士通Japan株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

株式会社横浜岡田屋

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川